

HIV 感染血友病等患者の医療福祉とケアに関する研究

研究分担者

大金 美和 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 患者支援調整職

研究協力者

大杉 福子 国立国際医療研究センター ACC 薬害専従コーディネーターナース

鈴木ひとみ 国立国際医療研究センター ACC HIV コーディネーターナース

野崎 弘江 国立国際医療研究センター ACC HIV コーディネーターナース

佐藤 愛美 予防財団リサーチレジデント HIV コーディネーターナース

谷口 紅 国立国際医療研究センター ACC HIV コーディネーターナース

栗田あさみ 国立国際医療研究センター ACC HIV コーディネーターナース

森下恵理子 予防財団リサーチレジデント HIV コーディネーターナース

木村 聡太 国立国際医療研究センター ACC 心理療法士

杉野 祐子 国立国際医療研究センター ACC 副支援調整職

池田 和子 国立国際医療研究センター ACC 看護支援調整職

上村 悠 国立国際医療研究センター ACC 医師

田沼 順子 国立国際医療研究センター ACC 医療情報室長 / 救済医療室長

湯永 博之 国立国際医療研究センター ACC センター長

岡 慎一 国立国際医療研究センター ACC 名誉センター長

藤谷 順子 国立国際医療研究センターリハビリテーション科 医長

研究要旨

【背景】薬害 HIV 感染者は HIV 感染症、C 型肝炎、血友病の他、長期療養における高齢化や悪性腫瘍等の合併症、肝疾患等、複数の疾患をかかえている。医療や生活に関する包括的な情報収集とアセスメントにより個別のニーズに対応する支援が求められている。この研究班で作成した“医療”と“福祉・介護”の2種類の情報収集シート/療養支援アセスメントシートは看護師による不足のない情報収集と的確なアセスメントを行うための支援ツールである。

【目的・方法】全国で薬害 HIV 感染者のヒアリングに活用されているが、より一層の効果的な活用について検討することを目的に、ブロック拠点病院の CN (HIV コーディネーターナース) を対象にシートの活用方法に関するプレ調査を行った。

【結果・考察】シートの作成は、CN における業務負担の増加が考えられ、電子化による簡便化が望まれたが、電子カルテは施設ごとにシステムの違いがあり、CN の看護記録も様々で、電子化には課題が残る。一方で多職種との情報共有の手段としては情報が散在する電子カルテよりも紙媒体はまとめて情報を確認できるため、多くの施設が紙媒体での共有を行っていた。療養支援アセスメントシートの活用は、ヒアリングを契機に患者との面談を計画しやすく、潜在的な問題点の抽出に活用できる点から、症例経験の少ない看護職の活動を支援するツールとして有効活用できると考える。今年度で作成した解説書と合わせて普及する。課題として残るシート活用について、今後は ICT を活用した看護支援の可能性も視野に検討する。

A. 研究目的

薬害 HIV 感染者の救済医療における介護福祉の充実を含む医療提供と医療連携の在り方を明らかにする。

B. 研究方法

この度、患者参加型医療の基盤作りとなる、“医療”と“福祉・介護”の2種類の情報収集シート/療養支援アセスメントシートの効果的な活用について検討した。ブロック拠点病院の HIV-CN (HIV コーディネーターナース) に、シートの活用方法についてプレ調査を行った。また症例経験の少ないスタッフ向けに看護支援のツールとして、情報収集シート/療養支援アセスメントシートの活用の解説書を作成した。

(倫理面への配慮)

本研究の実施については、倫理面への配慮を十分に言い実施した。

C. 研究結果

“医療”と“福祉・介護”の2種類の情報収集シート/療養支援アセスメントシートについて、ACC 及び8ブロック9施設の HIV-CN にプレ調査の回答を得た。

1. 情報収集シートの活用について

(1) 情報収集シートの作成と情報の取り扱いについて

プレ調査の結果は次の通りである（資料1）。自施設の薬害 HIV 感染者を対象に9施設すべての施設が情報収集シートを使用していた。作成者は4施設で CN のみが記入し、5施設は他の職種も記入していた。情報の更新のタイミングについて、5施設は受診時や面談時に適宜追記し更新しており、その中の3施設は年度初めや誕生日など年に1回は必ず内容を見直していた。多職種カンファレンスやミーティング

等の内容も追記する施設は4施設あり、多職種間で活用され、患者状況の変化に伴い情報が更新されていた。情報収集シートは、ヒアリング内容の検討を重ね、時代に即して必要な情報を追加してきたため、最終の書式は Ver.6 となっている。そのため書式変更の際は、7施設が、活用するタイミングで最新の書式に新たな情報を含めて取り直していた。紙媒体のため記入するスペースがなくなった場合に情報収集シートを記入しなおしていたのは3施設で、他3施設は付箋を活用、余白に記入する、余白やペンの色を変えるなどの工夫をしていたが、回答欄に納まらず紙媒体への記入に限界があった。作成方法は、患者のヒアリングと同時に情報収集シートを記入し完成させていたのは5施設で、4施設はヒアリング時のメモを参考に情報収集シートを清書しており、面談以外の時間を使い完成させていた。情報発信は8施設がブロック内の中核・拠点病院看護担当者連絡会議等で薬害 HIV 感染者（以下、患者）の支援ツールとして、看護師や MSW に紹介していた。

(2) 電子カルテへの情報の移行について

電子カルテへの情報の移行については次のとおりである（資料2）。スキャンによる取り込みは4施設で行われ、3施設は CN 自身が行い、1施設は外来クラークが対応していた。他の3施設は電子カルテに情報を手入力していた。2施設については、電子カルテへの記載はなくシートそのものが使用されていた。シートの保管については、9施設の CN が鍵のかかる保管場所に自身で収納していた。多職種間の情報共有では、情報収集シートの紙媒体を活用していたのは8施設で、うち電子カルテにスキャンされた情報と両方を活用している施設は4施設であった。リアルタイムな情報を共有する際には、全施設が口頭および電子カルテ上で最新情報を得ておりシートの活用はなかった。

		N=9 *複数回答
項目	内容	総数
使用の有無	自施設の薬害HIV感染者の全員に使用する	9
作成者	CNの他、MSW等も記入する	5
情報の更新	受診時や面談時、診察同席で情報を更新する	5
	年に1回は必ず内容を見直す	4
	多職種カンファレンス等の内容も追記する	4
書式変更*	シートを活用するタイミングで最新の書式に書き直す	7
	記入するスペースがなくなり次第、書き直す	3
	書き込みの工夫（付箋・余白、色を変え記入）	3
作成方法	ヒアリングと同時に情報を記入し完成させる	5
	ヒアリング時のメモを参考に情報を記入し清書する	4
情報発信	ブロック内に紹介（中核・拠点病院看護担当者連絡会議等）	8

資料1：情報収集シートの作成と情報の取り扱いについて

		N=9 *複数回答
項目	内容	総数
電子カルテへの取り込み	CN自身がシートをスキャンし取り込む	3
	CNが手入力で情報を取り込む	3
	クラークがシートをスキャンで取り込む	1
	電子カルテに取り込まずシートのみ活用	2
シートの保管	CN自身が鍵のかかる保管場所に収納する	9
多職種間の情報共有*	紙媒体を一緒に確認する	8
	電子カルテのスキャン内容を一緒に確認する	4
	リアルタイムな情報共有にシートを利用する	0

資料2：電子カルテへの情報の移行について

(3) 利用されている電子カルテと看護記録について

電子カルテのシステムは、「HOPE LifeMark-HX」5施設、「MegaOak」2施設、「IBM CIS+」1施設と、3種類が利用されており、機能もさまざまである。看護記録は、SOAPが5施設、掲示記録が3施設、DARが1施設、院内で統一されている看護記録フォーマットが1施設であり、記録の方法もさまざまであった。

(4) その他の意見

電子カルテには院内規定の検討が必要なため、スキャナへの取り込みや別フォーマットでの取り込みが難しい現状がある。情報収集シートがあることで、患者からは特に要望がない場合でも面談を計画しやすく、潜在的な問題点の抽出につながっている。電子化になれば記録が楽になると思うなどの意見があった。情報収集シートの活用は、電子化による簡便化、患者支援のきっかけ作り、支援の充実を図ることに役立てられることが期待されていた。

2. 療養支援アセスメントシート

療養支援アセスメントシートは、患者のヒアリングから「課題の抽出」を行い「患者目標」を立案し、そのための「課題の解決策」に該当するものをチェックし検討する。これら項目のチェックボックスを活用しているのは5施設であった。チェックボックスを活用していないが、項目は参考にすると回答した4施設は、チェック項目ではまとまらない複雑な課題の多いことを理由に挙げていた。9施設全員が、基本的なチェック項目で情報を整理できるため、症例経験の少ないスタッフ向けの支援ツールとして活用するのが良いとの回答であった。

3. 解説書の作成

“医療”と“福祉・介護”の2種類の情報収集シート/療養支援アセスメントシートの活用目的は、医療や生活状況を情報収集し包括的に患者を把握する

こと、療養支援アセスメントシートをチェックし支援不足の解消、支援内容を評価することである。活用にあたり副次的効果としてのねらいは、ライフレビューを兼ねて面談を行い患者と共に人生を振り返り過去の体験を共有できること、患者自身が当時気づかなかった課題や強みに気づく姿勢を育み患者参加型医療の基盤となる主体的な医療へのかかわりのモチベーションを高めること、医療スタッフが患者さんを理解しようと努める姿勢が信頼関係構築の過程となることがあげられる。これら活用目的とねらいの理解を促し薬害 HIV 感染血友病等患者の個別支援の活動を支援するツールとして作成した。

D. 考察

“医療”と“福祉・介護”の2種類の情報収集シート/療養支援アセスメントシートは紙媒体での運用のため、情報収集後のシートへの落とし込み、記録物の運用や管理について、CNにおける業務負担の増加が考えられ、電子化による簡便化が望まれる。しかし、現状、どの施設でも導入されている電子カルテは施設ごとにシステムの違いがあり、CNが行う看護記録も様々で、統一したシステム利用は困難な状況である。一方で多職種との情報共有の手段としては、紙媒体のシートが活用され、情報が散在する電子カルテよりもまとめて情報を確認できるため、多くの施設が紙媒体での共有を行っていたと考える。シートに関する活用方法は、電子媒体、紙媒体、どちらも一長一短であり、活用について検討を続ける。また、療養支援アセスメントシートの活用は、症例経験の少ないスタッフ向けの支援ツールとして有効であり、患者との面談を計画しやすく、潜在的な問題点の抽出に活用できる点から、看護職の活動を支援するツールとして有効活用できることが明らかとなった。看護職のみならず、多職種との協働支援にも有効な活用方法を検討していく。

E. 結論

情報収集シートは、医療や生活状況を情報収集し包括的に患者を把握することに役立ち、療養支援アセスメントシートは支援不足の解消、支援内容を評価し看護職の活動を支援するツールとして有効であることが示唆された。これにより患者との面談、コミュニケーションが活発に行われ、患者参加型医療に寄与すると考える。

F. 今後の展望について

“医療”と“福祉・介護”の2種類の情報収集シート/療養支援アセスメントシートは紙媒体での運用のため、情報を整理し多職種と情報共有するには不便な点が見られた。今後は、ICTを活用した看護支援の可能性を視野に院内外が多職種連携に効果的な情報収集、情報共有を検討し薬害 HIV 感染者の救済医療における介護福祉の充実を含む医療提供と医療連携の実践を目指す。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Miyuki Kawado, Makiko Naka Mieno, Shuji Hashimoto, Kagehiro Amano, Miwa Ogane, Shin-ichi Oka, Gaku Okamoto, Hiroyuki Gatanaga, Satoshi Higasa, Hiroshi Yatsuhashi, Takuma Shirasaka. HIV RNA and HCV RNA Levels, and Mortality: The Japan Cohort Study of HIV Patients Infected through Blood Products. The open AIDS journal. 2023, Volume17 3.

2. 学会口頭発表（国内）

- 1 大金美和, 南留美, 白川康太郎, 安達英輔. 持効性注射剤がHIV陽性者にもたらすベネフィット. 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.
- 2 佐藤愛美, 大金美和, 田沼順子, 野崎宏枝, 鈴木ひとみ, 大杉福子, 谷口紅, 杉野祐子, 木村聡太, 池田和子, 上村悠, 中本貴人, 渡辺恒二, 照屋勝治, 瀧永博之. HIV感染血友病患者に対するメタボリックシンドロームの判定評価と運動・食習慣に関する支援の一考察. 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.
- 3 宮本里香, 田沼順子, 大金美和, 池田和子, 野崎宏枝, 佐藤愛美, 鈴木ひとみ, 杉野祐子, 谷口紅, 栗田あさみ, 森下恵理子, 大杉福子, 木村聡太, 上村悠, 中本貴人, 近藤順子, 高鍋雄亮, 丸岡豊, 瀧永博之. 薬害 HIV感染者における歯科受診とセルフケアの実態と課題に関する調査. 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.
- 4 木村聡太, 野崎宏枝, 鈴木ひとみ, 大金美和, 上

- 5 村悠, 田沼順子, 大友健, 照屋勝治, 瀧永博之. 遺族健診受診支援事業からみる遺族健診受診者の現状と課題, 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.
- 6 森下恵理子, 池田和子, 杉野祐子, 谷口紅, 鈴木ひとみ, 栗田あさみ, 大杉福子, 野崎宏枝, 大金美和, 菊池嘉, 岡慎一, 瀧永博之. 施設入所したHIV感染症患者の特徴と支援内容の検討に関する研究～介護保険利用対象例のケアを振り返って～. 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.
- 7 白阪琢磨, 天野景裕, 大金美和, 川戸美由紀, 橋本修二, 三重野牧子, 天野景裕, 大金美和, 岡本学, 瀧永博之, 日笠聡, 八橋弘, 岡慎一. エイズ発症予防に資するための血液製剤による HIV 感染者の調査研究. 令和4年度報告書.
- 8 白坂琢磨, 川戸美由紀, 橋本修二, 三重野牧子, 天野景裕, 大金美和, 岡本学, 瀧永博之, 日笠聡, 八橋弘, 岡慎一. 血液製剤による HIV 感染者の調査成績第1報 健康状態と生活状況の概要. 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.
- 9 川戸美由紀, 三重野牧子, 橋本修二, 天野景裕, 大金美和, 岡慎一, 岡本学, 瀧永博之, 日笠聡, 八橋弘, 白坂琢磨. 血液製剤による HIV 感染者の調査成績第2報 日常生活の影響と主観的健康の検討. 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.
- 10 三重野牧子, 川戸美由紀, 橋本修二, 天野景裕, 大金美和, 岡慎一, 岡本学, 瀧永博之, 日笠聡, 八橋弘, 白坂琢磨. 血液製剤による HIV 感染者の調査成績第3報 ころろの状態の関連要因の検討. 日本エイズ学会学術集会, 2023, 京都.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし